

志木市議会議員 無所属

天田いづみの議会だより

市議会・まちづくり情報



〒353-0006 志木市館1-1-2-108

Tel/Fax:048-471-1338

E-mail: amada@ff.e-mansion.com

天田いづみのホームページ <http://www.ff.e-mansion.com/~amada/>

第43号 2011年5月

防災のまちづくりに向けて

志木市では37町内会中28町内会で自主防災組織が設立されています。

館地区で2～3月に行われた防災訓練では、5階建の階段を、イーバックチェアという器具を使って、そのように人を降ろしていく訓練や、志木消防署の協力を得て、自主防災組織で購入したジャッキを使って、倒れた家具を持ち上げ、下敷きになった人を助け出す実戦型の訓練が行われています。

また、地域で独自に「助けられる人」「助けてほしい人」のボランティア登録も行うなど、それぞれ熱心に取り組まれています。

そうした中、町内会や民生委員の方々からは、災害時要援護者台帳が、現在災害時しか使えず、訓練や日常の見守り活動にも使えるようにしていくべきではないか、更新もされていないといった意見が出されています。町内会単位で、自分たちの地域の高齢化の実態を把握し、活動に生かしたいとの意見もあります。

また、現在は自主防災組織設立時のみの補助制度ですが、活動を継続する際に必要な資機材の購入等への支援も必要ではないでしょうか。

8月27日の市民総合防災訓練に向けて、それらの課題を汲み取り、町内会や自主防災組織と相談しながら、自助・互助(共助)・公助に向け、市として必要な支援や、行政の役割を果たしていくべきと、

3月11日の一般質問で質しました。

江口市民生活部長から、「8月27日(土)には、市民一人ひとりが自ら考え参加し運営する訓練を考えている。今後は市民総合防災訓練の結果も踏まえ、地域としての災害への備えや、災害時要援護者に対する支援のあり方などの仕組みを、市民と行政がともに連携しながら、災害時における地域力の向上を図っていく。」との答弁がありました。

その後、2時46分東日本大震災が起きました。犠牲となられた方々のご冥福をお祈りし、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

以降、今まで自主防災組織の無かった地域でも、設立に向けた話し合いが持たれたり、自主防災組織では地震発生時に困ったこと等を聞き合い、備えていこうとの会が持たれるなど、地域住民は更に真剣に動き出しています。

司令塔になるべき市役所の耐震化が急がれますし、市民への情報伝達のあり方等、様々な課題があります。

震災後、街で皆様からいただいたご意見には、継続して取り組んで参ります。

環境に関わることや省エネルギーの提案等も含め、引き続きご意見をお寄せ下さい。

志木市公共施設安心・安全化計画(2011年2月)では市有建築物、災害時の重要なライフラインである道路橋梁について計画的に耐震化工事を進めていくこととし、今年度は志木大橋の耐震補強工

事がおこなわれる予定です。

学校については、今年度志木四小の耐震・大規模改修工事により、市内すべての小中学校の耐震化が終了します。



2010年12月議会 一般質問より

■ 高齢者が安心して住み続けられるまちづくり ～今後の在宅・施設サービスとネットワークづくり～

「認知症のまちづくり」をすすめている大牟田市を視察した際、10年前から市が事務局となって福祉施設がより良いケアをめざして研究会を重ねる中、中学校区で認知症見守りネットワーク等を進める際には福祉施設が事務局を担ってくれたとの話を伺い、感銘を受けました。

志木市でも特別養護老人ホームはブロンに加え下宗岡には「あったかの家」、幸町にも新たなグループホームが1月にオープン、特定施設(介護付き有料老人ホーム)は5月に柏町(75名)、6月には上宗岡(45名、ショートステイ5名)に開設予定です。

今後、さらに事業者が増えていくことが予想される中、事業者からも「志木市にも事業者連絡会があれば」といった意見が聞かれ、ネットワークの中で研鑽を深めていきたいといった志を感じます。

県内でも、市がグループホームの研修会を重ねている自治体もあると聞きます。

志木市ではケアマネジャー連絡会として、毎月研修が行われており、在宅サービスを担う小規模事業者の自主的な連絡会議はありますが、施設サービスのネットワークづくりも必要ではないか提言しました。

尾崎健康福祉部長からは、「今後は、施設事業者間の連携についても重要と考えるので、新たな施設の開設状況をにらみながら進めていきたいと考えている。」との答弁がありました。

■ 健康・医療・福祉のまちづくりについて

初台リハビリテーション病院の酒向正春さんの講演では、志木市立市民病院と福祉センターを中心としたヘルシーロード(高齢者や障がいのある方も安心して歩いたり買い物をしたり地域の中でリハビリテーションができるような都市基盤整備)のお話がありました。

志木市の高齢化率は現在約19%ですが、5年後(2016年度)には23.3%、館地区では40.4%と、5人に2人が65歳以上の高齢者となります。

いかに要介護状態にならないような施策を進めていくか。従来のような福祉分野だけでなく、都市整備、教育部門も含め一致協力、連携の力で今後の超高齢社会に立ち向かっていこうという戦略的なビジョンが重要です。

志木市では中学校区を一つの福祉圏域として、高齢者あんしん相談センター(地域包括支援センター)や公共施設を拠点に、市内全域でヘルシーロードの考え方を取り入れ、道路や公園等においても高齢者・障がい者等が利用しやすいように整備を行うべきと市長に質しました。

長沼市長からは「志木市版ヘルシーロードとして、福祉センターから総合福祉センターへの福祉ゾーン、民間の商業施設があるユニクロやマミーマートなどのショッピングエリア、市民病院や総合健診センターなどの医療ゾーン、あわせて、街なかふれあいサロンあざみなどへつなげる健康ゾーンへと、誰もが快適に歩行し必要な情報が得られるヘルシーロードについて、現在整備構想を有している。

志木市全域におけるヘルシーロード構想については、現在進めている歩車道分離事業、しき安心・安全歩行プラン事業などを推進することや、公園の安心・安全化計画を策定することなどで事業展開を進めていきたい。」との答弁がありました。

2011年度は志木駅東口駅前広場、柳瀬川駅西口・東口駅前広場についても、それぞれ整備される予定です。計画段階から市民や利用者の意見を反映し、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの考え方で、進めることを求めました。

■ 社会教育における

行政のマネジメント機能について

指定管理者が管理・運営する宗岡公民館では、(財)志木市文化スポーツ振興公社の社会体育・スポーツ面での特性を生かした事業展開や、利用者の意見を反映してフリーマーケットを行うなど、地域コミュニティをつくっていききたいとの思いで取り組まれています。

宗岡第二公民館では(社福)志木市社会福祉協議会の特性を生かし、地域福祉事業として市民後見人養成講座や男の料理教室を行っています。

一方、いろは遊学館も志木小学校に働きかけて、「命の大切さ」などのテーマで総合的な学習の時間に各学年の発達段階に応じて一緒に活動するなど、学社融合の機能を発揮しています。

さらに、いろは遊学館に求められているのは、志木市全体の社会教育をマネジメントし、宗岡公民館・宗岡第二公民館等とのコーディネートを行っていく機能ですが、充分とはいえません。

また、志木市では市民活動が活発で、サークルや市民団体として、それぞれの得意分野を活かして社会教育を担える力もありますが、他市の公民館活動に協力している事例も見受けられます。せっかくの市民力を志木市の社会教育や生涯学習に活かし、市民手づくりの貴重な情報や活動が志木市で循環する仕組みづくりを求めました。

白砂教育長からは「今後は、これまでのサークル活動で培った市民の持つ生涯学習活動のノウハウを大いに活用し、それぞれの市民サークルが独自に企画した講座を開催するなど、主体的な生涯学習活動を支援していきたい。施設相互間の連携を密にし、生涯学習を展開していきたい。」との答弁がありました。

社会教育には地域の課題を解決していくための学習を推進することが求められています。

社会教育主事の有資格者も高齢化しており、人材育成の大切さを提言し、白砂教育長からは、「社会教育主事は必要だろうと思っており、新しい社会教育に造詣の深い、社会教育の好きな人材の養成に意を用いていきたい。」との答弁がありました。

■ 誰もが安心して利用できる交通システム

柳瀬川駅にエレベーターが設置されることにより、車いす利用者のみならず、ベビーカーやカート等、多くの方々の利用が見込まれます。

階段と階段の間にエレベーターを設置せざるを得ないということで、昨年4月30日には車いす利用者、市職員と共に、現地で車いすに乗ってみました。

まず、改札からエスカレーターを車いすで乗り降り、乗る方も介助者も怖い思いをしながら、誰もが安心して利用できるエレベーターの重要性を実感しました。

ホームでは、電車を降りて車いすでエレベーターまで移動する際、階段際の通路がホームの白線までで110センチと非常に狭いことを体験し、東武鉄道に工事中を含む安全対策を求めることを改めて市に要請しました。

東武鉄道によれば、柳瀬川駅ホームの傾斜は2%前後(国土交通省ガイドラインでは1%が標準と規定、構造上やむを得ない場合はそれ以上の傾斜を認めている)とのこと。

各地でホームへの転落事故が相次ぐ中、鉄道各社はバリアフリー新法で設置が求められているホームドア(可動式のホーム柵)の導入を進めています。山手線は2017年度を目途に全駅に設置予定、東京メトロは2012年度までに有楽町線全駅に設置予定です。

また、JR等では、「ホームの端が狭くなっていますのでご注意ください」等の表示による注意喚起や、ホーム端に白い斜線を引き視覚的に注意を促すなど、事故防止に努めています。

江口市民生活部長からは、「ホームドアの設置など駅の安全対策については、1月18日に開催された東武東上線改善対策協議会(沿線7市2町)を通じて要望している。市としては、駅利用者の安全確保やバリアフリー整備については、引き続き協力を求めていくとともに、東武東上線改善対策協議

会を通じ、東武鉄道株式会社に駅舎の安全について要望していく。」との答弁がありました。

※ 柳瀬川駅エレベーターについては3月16日から運転開始予定でしたが、東日本大震災の影響で、3月15日より必要に応じて運転できる体制をとり、常時の運転は見合わせていました。

エスカレーターも停止しているため、お体のご不自由な方々に配慮し、エレベーターだけは運転していただけるよう東武鉄道に要請し、3月26日から通常運転しています。

万が一地震の際も、目的階まで上下して止まるので、閉じ込められる心配は無いとのことでした。

■ 予防に重点を置いたメンタルケアシステム

志木市戦略的定員管理計画(2011年2月)によれば、今後5年間で医療職を除く職員の約4分の1にあたる100人が定年退職を迎える。

職員の年齢構成は50歳以上が40%を超え、49歳から30歳までが48%、29歳以下が12%となっており、年齢構成のバランスを改善する必要がある。

若年層の減少により、ベテラン職員の持つスキルや経験の継承や、将来における職場リーダーの不足が懸案事項となっている。

この計画は定員削減を主眼とするのではなく、厳しい財政状況の中で自立した自治体経営を確立するとともに、市民が安心安全に生活できる街の実現

をめざすため、職員定数の方向性を定めていくもの。2015年度の目標数を500人としています。

2010年度の546人からさらに削減していくという中で、年齢バランスの問題もあり、組織のメンタルケア体制はより一層重要になっていくと考えます。

厚生労働省も企業にストレス検査の義務付けを検討しており、労働安全衛生法改正の必要性も含めて議論し、早ければ2012年度からの実施をめざすという動きもあります。

組織における、予防に重点を置いたメンタルケアシステムの構築について質し、杉山企画部長からは、「新年度からは専門家による電話相談を業務委託し、本人や家族からの電話相談に対応することで、相談者一人ひとりに合ったケアにつなげていくことが可能となり、早期対応・早期改善が期待できるものと考えている。管理職には異変の初期サインを見落とさないよう研修を通して指導を徹底し、職場におけるコミュニケーションの活性化を図るなど、職員一人ひとりの健康管理について注意するよう喚起していく。」との答弁がありました。

客観的な外部の専門家に関与していただけるようなシステムを構築していくことが当初からの課題でしたので、一歩前進と考えます。

合わせて、個々の問題にとどめず、組織としてどのような点に留意していくべきか、相談者のプライバシーを守りながら取り組んでいくことが非常に重要です。2011年度に向けて、組織の体制についても留意を求めました。

● 天田いづみの活動日誌(主なもの)



- 2010年11月1日 地域自立支援協議会傍聴
- 2日 朝霞地区一部事務組合決算特別委員会
- 7日 市民文化祭
認定NPOグリーンケア・サポートプラザ2010講演会
消防ふれあい広場(埼玉県南西部消防本部志木消防署)柳瀬川駅西口にて
- 13日 地域福祉コーディネーター養成講座公開講座「孤独死ゼロ作戦 これからの近隣関係を考える」松戸市常盤平団地自治会長中沢卓実さん(社会福祉協議会)
- 16日 朝霞地区4市消防団連合点検
- 19日 2012年介護保険改正の論点 NPO暮らしネット・えん 小島美里さん(高齢者あんしん相談センター柏の杜)
- 21日 市民まつり

- 24日 朝霞地区一部事務組合臨時議会
- 27日 ペあもーる&たてのよこいとコラボ・フェスタ 辻銀杏で街あわせ
志木市地域医療フォーラム「子宮頸がんは検診とワクチンで予防できる～市民の大きな安心」
今野良さん（自治医科大学附属さいたま医療センター産婦人科教授）
- 28日 志木音楽サークル連絡会20周年記念演奏会…音楽の力を感じる！！
- 11月25日～12月16日 議会定例会
- 12月11日 地域DE子ども見守り隊ふれあいコンサート（志木四小体育館にて）
いきいきサロン「低栄養が病気をまねく」戸田中央医科グループ本部栄養部部長 武田真佐美さん
- 12日 ハートフルコンサート（総合福祉センター・宗岡第二公民館・児童センター・宗岡子育て支援センター）ハートフルバザー（志木市社会福祉協議会）
- 19日 なぎの会～第7回邦楽鑑賞会～
- 21日 高齢者保健福祉計画審議会・介護保険事業計画策定委員会傍聴
- 22日 朝霞地区一部事務組合議会
- 1月9日 消防出初式、退職消防団員感謝状贈呈式
- 15日 志木市の医療改革―市民病院の再生計画（男の広場・いろは遊学館）
- 18日 アフターファイブ（21しき市民会議5期）定例会
- 21日 柳瀬川富士見市側アシ原火災（志木消防署が応援出場）視察
- 25日 柳瀬川踏切事故現場視察
- 27日 患者等搬送事業について伺う
- 2月4日 都市計画審議会傍聴…地区計画、高度地区特例許可について
志政フォーラム
- 2月5日 子ども議会
太陽展
- 20日 館地区での防災訓練視察
- 2月27日～3月17日 議会定例会
- 3月3日 本町3丁目雨水排水立会
柳瀬川河道掘削視察
- 6日 総合福祉センターまつり
水塚シンポジウム 惣囲堤と水塚の文化に学ぶ 千葉県立関宿城博物館上席研究員 齋藤仁さん（NPO法人エコシティ志木、（財）埼玉県生態系保護協会志木支部）
- 11日 東日本大震災
- 15日 志木二中卒業式
- 21日 志木二中吹奏楽部定期演奏会（志木二中体育館にて）
- 23日 志木二小卒業式
- 26日 天田いづみのティータイム
- 28日 朝霞地区一部事務組合議会
埼玉県南西部消防本部、岩手県陸前高田市への緊急消防援助隊活動報告会
- 4月3日 自主防災組織に関する情報交換会
- 8日 志木二中入学式
- 11日 志木二小入学式
- 14日 老後を快適にくらす会総会
- 17日 カップふれあい館東日本大震災支援チャリティー1周年記念セレモニー
- 23日 館地区防災話し合い
- 25日 民生委員推薦会
- 26日 志木フォトクラブ第20回～祭～写心展
- 27日 議会臨時会



■ 本町6丁目地区計画で

新たなまちづくりのルール

2006年度マンション建設問題に端を発した建物の高さ制限を求める地域住民の要望を受け止め、市では2009年度から地区計画について地域住民との話し合いを進めてきました。

地区計画とは、地区単位で、建物を建てる際の制限などについて、その地区の特性に応じたきめ細かいルールを定めることによって、良好なまちづくりを進める方法です。

本町6丁目のユリノキ通りからパルシティ通りまでの区域のうち、A地区(第1種中高層住居専用地域)については建築物の高さの最高限度を10m、B地区(第2種住居地域)、C地区(近隣商業地域)については18mとしています。

さらに、A地区・B地区については、建築物の最低敷地面積を100㎡としています。また、交通安全や防災、緑化にも配慮し、道路に面する宅地は生垣、透視可能なフェンス等とし、ブロック塀の場合は道路境界から60cm以上後退し、道路側に植栽することとしています。

2008年度から、市内の殆どの住居系地域では、市が定めた高度地区により、新たな建築物の高さは25mまでとされています。

本町6丁目の皆さんは、高度地区の決定に際しても、地域の実態に応じた高さとするよう積極的に働きかけてきました。

これに対し、市では、さらに高さ制限を低くしたい等の地域のニーズには、地区計画を誘導することで応えていきたいとの方針を出していました。

ここで地域住民と行政の協働により、1993年に地区計画が定められた上宗岡三丁目地区に続き、志木市では2か所目の地区計画となりました。

市では今後も地域でまちづくりの機運が高まれば、積極的に住民との協議を進めていきたいとのことです。

**** これまでの活動とその成果は！！ ****
天田いづみのホームページでご覧下さい

■ 埼玉県南西部消防本部

東日本大震災で緊急消防援助隊

朝霞地区一部事務組合埼玉県南西部消防本部(朝霞地区4市の広域消防)では、総務省消防庁から埼玉県への緊急消防援助隊の派遣要請(3月11日21時13分)を受け、埼玉県緊急消防援助隊に登録している4隊(消火部隊、救助部隊、救急部隊、後方支援部隊)16名を第1次派遣隊として、3月11日21時45分、岩手県陸前高田市内へ派遣しました。

埼玉県南西部消防本部は3月11日14時46分地震発生後、15時には緊急消防援助隊出場準備を全署所に連絡、21時45分には埼玉県緊急消防援助隊(44隊、174名)として東北自動車道羽生パーキングエリアに集結し、岩手県陸前高田市内で行方不明者の搜索活動等を行いました。

3月11日～31日、1次～5次派遣隊までが交代要員で派遣されました。

雪の中にエアータントを設営、野営しながら、食糧も持参した備蓄品、8時半からビスケットで昼食をとり4時まで、胸までの長靴で、ファイバースコープを使ってガレキの中に行方不明者がいないか搜索、残念ながら生存者は発見できなかったそうです。

無事に任務を終え、隊列を組んで引き揚げる際には、現地の市民の方々から頭を下げて「ありがとうございます」と見送られたそうです。

今回の活動を通して、装備の充実が必要との課題も明らかになったとのこと。朝霞地区一部事務組合議員として、被災地支援が充分に行える体制の整備に協力していきます。



ティータイム

7月23日(土)

午後 2:00~4:00

柳瀬川図書館2階視聴覚室

志木の中で身近に感じていることなどを

気軽にお話しませんか?